

第23回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	株式会社太平洋シルバーサービス	施設名	シルバーシティむさしの櫛館
発表タイトル	ご入居者様の笑顔を守るために ～私たち全職員の“想い” ラポール構築で成しえたQOL維持の取り組み～		
研究の目的	コロナ禍での各種制限によりご入居者様のADL低下が懸念されたが、当ホームではフロントや事務、営繕など間接部門の職員たちが手を挙げ、自分の得意分野を活かしながら、日々のサークル活動の企画・運営をスタートした。その内容を検証する。		
発表の概要	2020年以降のコロナ禍により、面会制限のみならず、外出や外部講師の入館も制限され、ご入居者様のADL低下が懸念された。 しかし、日頃からラポール（職員同士の信頼関係）構築に努めてきたシルバーシティむさしの櫛館では「私たちにも“できること”はある」と、フロントや事務、営繕など間接部門の職員たちが手を挙げた。持ち前のチーム力を生かし、ミーティングを開催して介護・看護部門とも十分に意思疎通を図ったうえで、自分の得意分野を活かしながら、日々のサークル活動の企画・運営をスタート。 これにより波及的にもたらされた様々なメリットについて考察する。		
研究方法	間接部門が主体となり企画・運営している主なサークルについて再検証を行い、その成果を分析した。		
成果・結果	当ホームにおける介護に係る職員体制は「2：1」ともともと手厚いが、介護職員の一部業務を間接部門が担うことにより、さらにケアの時間にゆとりが生まれ、下記の効果が発揮された。 ・サークル等の際、気になったことはすぐに介護や看護部門へ情報共有することで、生活面や健康面での取りこぼしが少なくなった。 ・ご家族様の外泊や入院、または転倒等によりご自宅では介護できなくなる場合等、ご家族様の急なお困り事に、より迅速に寄り添えるようになった。 ・ご入居者様に寄り添う時間が増え、今まで以上に個別対応が可能となった。 ・介護職に研修を依頼し、間接部門の見守り能力が向上した。 ・以上により、日勤帯の事故件数を2020年度19件、2021年度14件、2022年度8件と、年々減らすことができた。この要因は、間接部門の職員に係る居室外の事故件数を減らすことができたためと考えられる。（2020年度9件→2021年度3件→2022年度1件）		
考察	日頃から園長（管理者）、介護職、看護職、その他各部門との間でラポールが構築できていたからこそ実現できた取り組みといえる。 また、このたびの取り組みは当ホームにノウハウとして蓄積され、たとえ平時でない場合も、ご入居者様のメリハリある生活をお支えできる体制を整えることができた。		
アピールポイント 伝えたいこと	現在も外部に頼ることなく、フロントや事務職員が創意工夫しながら、日々のサークル活動を企画・運営している。 フロントや事務職員もご入居者様に対する“想い”は同じ。これからもラポール構築に取り組み、ご入居者様の笑顔やQOLを守り続けていきたい。		